

衝撃吸収性

衝撃や衝突によるエネルギーを分散・吸収、転倒時の衝撃をやわらげてくれます。
学校・幼稚園、老健・病院など、安全性が求められる床材に。

衝撃吸収性・・・読んで字の如く、衝撃を吸収して小さくしてくれる性能のことです。転んだ時に痛いのは、体重だけの力が床から跳ね返ってくるからです。衝撃吸収性のデータは、加速度Gで表されていて、数字が小さいほど跳ね返る力が小さく、衝撃吸収性に優れているということになります。

■床材の衝撃吸収性 (JIS A 6519 9.6床の硬さ試験準用)

商品	0	20	40	60	80	100	120	140	160	180	加速度G値
ロボフロアータイル (5.3mm厚)	[Progressive bar chart showing 130G]										130G
ロボフロアーシート (4.3mm厚)	[Progressive bar chart showing 113G]										113G
コンクリート (300×300mm×60mm厚)	[Progressive bar chart showing 157G]										157G

摩耗強さ

1㎡あたり約7,000万本以上!
驚異の超高密度植毛。通行量の多いスペースでも長期間にわたり施工直後の美しさを保ちます。

カーペットは、パイルに使用されている繊維の強度、また繊維そのものの重量(目付)が多ければ多いほど丈夫とされています。ロボフロアーは、1㎡あたり約7,000万本以上の超高密度直立植毛。しかもパイル糸には優れた耐摩耗性、復元力を持つ高性能繊維として定評の「ナイロン66」を使用。耐動荷重性の高さと共に、この摩耗強さで驚異の耐久性を実現。駅コンコースや国際空港などのパブリックスペースで採用され、高い評価を得ています。

ロボフロアーは、すべて重歩行用仕様です。



人の出入りの多いホテル等商業施設、店舗、オフィス、病院や住宅で軽歩行から重歩行までに対応しています。

摩擦による重量変化の測定結果

■試験方法/JIS L 1021-11

テーパー型摩耗試験機を使用。試験片を5,000回及び10,000回、回転摩擦。摩擦前と摩擦後の重量変化を測定。

■タイプ別比較データ

タイプ	5,000回	10,000回
ロボフロアータイル	74g	99g
ロボフロアーシート	104g	185g
タイルカーペット (タフト製ナイロンカット)	172g	199g
タイルカーペット (タフト製ナイロンループ)	125g	241g
タイルカーペット (タフト製ポリプロピレンループ)	321g	624g


※上記の試験結果は測定値であり、保証値ではありません。

■ロボフロアーのパイル密度は約7,000万本以上/㎡!


高密度のパイルが、長期間きれいな状態を保ち、高い耐久性を可能にしています。

ロボフロアー
VS
一般のカーペット

ロボフロアー



一般的なカーペット



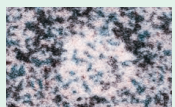
一般的なカーペットに比べて約10倍以上のパイル密度があります。

■キャスターによる耐久テスト

約7,000万本のパイルを直接基布に植えつける製法のロボフロアーは、一般的なカーペットに比べて、約10倍のパイル密度があります。その表面がキャスター走行を快適にし、パイルの潰れをおきにくくしています。



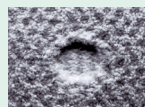
ロボフロアー




ロボフロアー
(2万回転後)

パイルの潰れがほとんど見られない。

一般的なカーペット



ポリプロピレン製
(2万回転後)



原着ナイロン製
(2万回転後)

パイルの潰れやへたりが見られる。